

浄心寺だより

発行
浄心寺門信徒会

郵便番号714-0081
笠岡市笠岡2065
電話(0865)62-2623
FAX(0865)62-2595
振替01260-9-13760
<http://joshinji.suki-ari.net/>



春が来ましたよ

「み法を味わって」(聖)

精進(しょうじん)

精進とは努力ということ、自分の至らぬところをのばす努力であります。自分の大切なものの第一は生命でありましょう。いのちあつてのものだねであります。しかし自分の大切な生命のために他の生命を犠牲にしてもよいというのではなく、自分の生命の大切さを知ればますます他の生命を尊ばねばならないのです。

それなのにすべての生物は他の生物の生命を奪わなくていけないのです。悲しいことです。自分でこの現実を見つめ、いただいた多くの生命の価値に気づき、感謝しているかを問い、いたずらに自分や他の生命をもてあそんではならないことを肝に銘じたいものです。

鷹谷俊昭著『月ごとのことば』転載

ごあんない

宗祖降誕会

五月十八日(土) 十三時より

- ・コール清風ミニコンサート
- ・チャリティコンサート
- ・法話 世羅町 島津恵航師

※門信徒総会 同日十一時より

春季彼岸会・永代経法要つとまる



三月十九日、春にしては冷たい風の吹く中、十三時半より春季彼岸会、門信徒総追悼永代経法要が勤まりました。

一同で阿弥陀経をお勤めした後、ご法話を拝聴。講師は神石高原町、法泉寺の川上順之師でした。

今回は「往相回向、還相回向」についてお話しいただきました。

まず「回向」について、他宗派によっては「お布施」ではなく「回向料」を僧侶に渡しますが、これは僧侶への労働報酬であり、その僧侶が自らの修行の功德を故人に振り向け、成仏させてくれることへのお礼です。対して浄土真宗では、阿弥陀さまが自らの功德を故

人に振り向け救ってくださることへのお礼であり、仏前にお供えする(僧侶ではなく寺院に納める)ものです。同じ回向でも宗派が違えば中身は全く違ってきます。

「往相回向」とはこのような、命終われば阿弥陀さまの世界で救われてゆく、という側面を指したものです。故人はそこでただのんびりしたり、眠っているわけはありません。

「還相回向」として、故人は浄土から俗世間に還ってきて、残った者を救うはたらきをする、といます。ただ、実際に帰ってこられるのではなく「お浄土にいながら、はたらきとなってこの世に還ってくる」そして残された私たちを導いてくれる、といます。これには、故人をご縁に私たちが法事、法座などのご縁に遇わせていただくことも含まれます。

すなわち、浄土真宗にとつてのゴールは極楽浄土への到達ではなく、さらにそこから俗世間のわたしたちを導くところまでです。いつ死んでも大丈夫か、と問われればノーと言ってしまおうわたしたちですが、阿弥陀さまはイエス、いつでも大丈夫だよ、と準備万端です。安心して今を生きてくださいましょう。

やさしい仏教講座

第25回 4月10日(まとめ)

『お墓のあり方』

新聞の投書欄のお墓のあり方特集の記事を見ていきました。近年急激に墓じまいをする人が増えています。それぞれの家の事情や思いによって、さまざまに悩まれている様子が伝わってきました。

浄土真宗にとつて故人を思いながら手を合わせる場所はお仏壇です。遺骨に執着しすぎるといらぬ悩みを増やしてしまうことになりかねません。遺骨はいずれは自然に返してあげねばなりません。また自分の死後のことは、あれこれ指示せず、残った者に任せるのが一番ではないでしょうか。

『龍樹菩薩』

正信偈の四十九から五十四句目までみていきました。ここには龍樹菩薩について説明があります。龍樹はインドの僧侶で經典の注釈書や解説書を多く残しています。最近の研究では、複数の龍樹がいたのではないかと言われています。親鸞聖人が言われる龍樹と



龍樹像(チベット所伝)

いうのは、西方浄土に関する記述のある書物の作者を指しています。これは本来の龍樹ではないかもしれませんが、親鸞聖人としては、そこに説かれる極楽浄土の教えこそ大切なものであったのです。

『葬儀での俗信』

葬儀の際の俗信などについて引き続きみていきました。茶碗を割る、一本線香を立てる、ろうそくを絶やさない、友引を避ける、清め塩をする、これらはすべて浄土真宗では行いません。これらは、亡くなった方の側に立てば非常に失礼なことであったり、あるいは真宗の教えに反するものです。なぜそういうことをするようになったのか、考えてみることは大事なことです。

門信徒の広場

地区委員さん登場



吉浜東地区

守屋 克彦 さん

向吉浜東地区は、田畑と背後の山に囲まれ、のどかで静かな地域です。約40年近く、県内のお菓子製造メーカーに勤められ、定年退職を機に6年前地元に戻ってこられ、令和3年から同地区4戸を担当してくださっています。趣味

監査

(前) 高橋保文さん

(新) 藤原眞治さん

監査

(前) 藤井浩一郎さん

(新) 三島大尚さん

前役員のお二人には大変お世話になりました。新役員の方々にはこれからよろしく願います。

仏婦例会 3月10日

31名が参加し、住職の「本当の私とは？仏教のものの見方」というお話を聴きました。

は釣りや山登りとのこと。山登りに関しては、トレッキング程度の軽い山登りかとお尋ねしました

ところ、初心者だと謙遜されながら、日本アルプスなどの高い山々にも登った経験がある、とニコニコ楽しそうに話されていました。

今後の目標としては、地元に戻ってまだまだ日が浅いので、地域の方々とのコミュニケーションを図りながら地域を盛り上げたいと。また、今は失敗ばかりですが、畑でおいしい野菜を作りたいとのことでした。

研修旅行のおもてなし

6月21日(金)

に高知市の高知別院へ、日帰りで参加します。

施設が新調された桂浜を訪れたり、旬のカツオのたたきを食べます。トイレ付き新型バスを利用。

参加費は8000円、締切は6月16日。

ぜひお誘いあわせされ、ご参加ください。



トット言 葬儀後の七日参りについて

最近では葬儀と合わせて初七日の法要をすることが増えてきました。本来は亡くなった日から六日後につとめるのが初七日法要ですが、またすぐ集まる必要があるので、一日にまとめるわけです。

その後、二週間後から七日参りをし、四十九日で納骨をするわけですが、実は浄土真宗では本来の意味での七日参りを行いません。

そもそも七日参りとは仏教ではなくインド土着の信仰(輪廻転生)に由来するものです。生前の行いによって次の生まれが決まります。少しでもいい生まれに生まれたい。

備中里組 慶讃法要

5月24日(金)

親鸞聖人ご誕生850年立教開宗800年の慶讃法要が矢掛文化センターで開催されます。

午後1時から4時まで、昔ながらの節壇説教や、歌のコンサートもあります。参加無料。

12時浄心寺発のバスを出します。ぜひお誘い合わせされご参加下さい。申し込みは浄心寺まで。

るように読経するのがこの法要です。



浄土真宗では「生まれ変わる」とは考えません。誰もがただちに極楽浄土に還ります。ですから、残った者が故人を心配する必要は全くないのです。

浄土真宗では死を受け容れる期間として時間をおき、三十五日から四十九日の間ぐらいに法事を行い、納骨して一区切りとします。これは悲しみを癒す期間なので

です。ですから、四十九日法要の当日にこだわらなくても大丈夫です。参列する人が集まりやすい日時をご相談の上、当寺の都合と合わせ決定してください。

還浄(げんじょう) (敬称略)

多賀	清子	2	17	94	滋賀県
赤澤	一郎	2	21	85	福岡県
津田	一成	2	25	88	金浦
森田	昭光	2	25	87	倉敷市
内山	京子	3	7	85	横島
山田	みどり	3	30	70	大島
田林	一恵	4	2	88	田頭
足立	和子	4	10	85	里庄町

笠岡を歩く

歴史散歩(3)

長安圭一

小田県庁跡

現在の笠岡小学校の敷地は、小田県庁の跡である。堀の内と呼ばれ、以前は三方を堀で囲んでいた。その堀も近年埋められ、今では県庁当時の面影を残すのは表門だけとなっている。

明治四(一八七二)年十一月、廃藩置県によって深津県が誕生した。当初その治所は深津村(現福山市)に設置されたが、翌五年六月、県名は小田県と改称され、その県庁が笠岡に置かれることとなった。

県庁は江戸時代に笠岡代官所があった小丸に建設され、官舎五十七軒が建設された。これにふさわしい正門として、都宇郡妹尾村(現岡山市)の元戸川陣屋の長屋門を移築し、堀を巡らせた。

権令は有名な矢野光儀(みつのり)で、「小田県展覧会」や臨時の民撰議員による合議(県会)を開催するなど、先進的な行政を展開したが、わずか三年六ヶ月で小田県は廃止され、明治八(一八七五)年十二月、旧備中国十一郡が岡山

県に、備後国六郡が広島県に吸収合併された。

小田県庁正門

県庁正門は堀に面して南向きに建てられていた。屋根は入母屋造で本瓦葺。



軒丸瓦の文様には戸川氏の家紋である「三本杉」を使用している。土蔵造の建物で、柱は方柱を使用。八双金具、乳金具を打った両開きの板唐戸を入れ、その両脇は潜門にしている。門の西側には一間の出格子窓、同じく東側には半間の窓を設け、壁面には窓の高さまで下見板を張ってある。ちなみにこの門は後世の道路拡幅工事に伴って、若干北にずらして移築されている。現在門の前にある堀は、その時に築かれたものであり、県庁の遺構ではない。

なお、小田県庁門は今でも笠岡小学校正門として使われており、その門をくぐって子供たちが登下校している。

お盆参りの中止について

これまで一部の地区を除き、多くのお宅にお参りしていたお盆参りですが、近年前住職の高齢化もあり、お約束通りお参りできないことが増えてまいりました。また平日は留守にされているお宅も増えてまいりました。

このような事情で、昨年からは希望されるお宅だけをお参りし、それ以外の皆さまには従来おつとめしていたお寺での「盂蘭盆会」にお参りいただくことにしました。

ご自宅へのお盆参りをご希望の方は、**六月三十日までに**浄心寺までお知らせください。日時を調整し、後日お参りの日程をお知らせします。お参りは八月上旬です。

また盂蘭盆会は回数を増やし、八月十四日の九時、十一時、十四

サマースクール

7月22日(月)
10時から21時

◎対象:小学生 ◎参加費:500円
締切:7月15日(月)



時、十五日の十時、十四時に本堂でおつとめする予定です。いずれかにご参拝ください。どうぞご理解、ご協力のほど、よろしく願いいたします。



令和6年度 門信徒会会費納入のおねがい

本年度会費納入をお願い申し上げます。納入につきましては、地区委員さんを通してか、地区委員のおられない地区の方はご参拝の折、あるいは同封の郵便振替をお願いいたします。

門信徒会費は年額 **2,000円**として、それ以上の御懇志の方には金額を限定しておりません。(会計)

編集後記

慈光のもと皆様には益々ご清祥のことと大慶に存じます。

春季彼岸会・永代経法要等の報告、降誕会、研修旅行、サマースクール等のご案内をお知らせする第147号をお届けいたします。緑したたる5月、ご自愛いただきますよう。

(編集委員 釋賢大)